

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

令和四年一月度 入賞句一覧

投句数 五百八十六句

持選

度会 さち子 選



関ヶ原冬帝どかと陣を張る

岐阜市

堀江 美州

関ヶ原はいつの年も雪が多い。いくつもの陣址の残る古戦場は、今年も早々と大雪になつた。確かに、雪をもたらずのは冬帝。それが、今もどかと、古戦場に陣を張るとは。早く去つてほしいが、お見事。俳句表現の妙味がある。

襟巻きやきりんの首も骨七つ

安八郡安八町

渡辺 ちよ

南国生まれのキリンはこの寒さをどう過ごすのだろう。長いキリンの首にも襟巻きを巻いてやりたくなる。ところで、あの長い首を支える骨は？キリンの首の骨も七つだが、最近八つ目の骨が見つかったという。キリンと襟巻きの連想が楽しい。

山茶花の紅雨のごとし久女の忌

愛知県尾張旭市

小野 薫

杉田久女の忌は一月二十一日。「花衣ぬぐやまつわる紐いろいろ」など、華やかで格調高い句を詠んだ明治・大正を代表するホトトギスの俳人だが、その晩年は哀しい。山茶花の散る花卉を紅雨とみて佳。久女の句、その生涯を思いださずにはおれない。

秀逸

蹟きに恩師の詞木の葉髪

大垣市

田口 貞善

乱れ飛ぶ鳶の眼光さす枯野

岐阜市

花川 和久

日向ぼこ五歳の悩み聞いている

東京都世田谷区

関戸 信治

しぐるるや海の字の褪す三鬼句碑

埼玉県川口市

吉永 寿美子

風吹ゆる枯れ一山の面構へ

大垣市

高田 雅章

七草の長さがへてかほりけり

大垣市

佐藤 すみ子

着ぶくれて口まで重くなりけり

大垣市

村田 通夫

法灯の光を紡ぐ初蜜柑

養老郡養老町

佐藤 咲楽

柚子ジャムをコトコト煮れば猫が伸び

大垣市

香田 末代

凍滝の凍ての一筋発光す

三重県三重郡

水野 悦子

入選

巫女の手鈴音生る花八手

大垣市

田口 貞善

一徹は父親ゆづり山の芋

大垣市

村田 通夫

綿虫彷徨う二人居ても独り

安八郡神戸町

北村 咲子

ホールインワンの満身冬至風呂

大垣市

小林 研

四日早や常の厨にパン匂ふ

大垣市

岡田 あや子

神域の音は拍手大旦

大垣市

後藤 喜美男

薫の先いつも吹かれて寒牡丹

不破郡垂井町

大羽 志津子

初句会笑ふことより始めけり

養老郡養老町

松永 智志

やつと来る名乗り大きく初句会

岐阜市

堀江 美州

抱かれたる嬰のあくびに初笑ひ

大垣市

早崎 美弥子

北風に乱れし髪の手櫛かな

大垣市

早筈 千恵子

蔓引けば垣とび出して烏瓜

揖斐郡揖斐川町

栗野みねお

冬夕焼段々畑に折れる影

神奈川県川崎市

立野 音思

聖樹の灯スカイツリーの影の街

三重県四日市市

後藤 允孝

照り返す能登の瓦や冬の風

愛知県尾張旭市

小野 薫

侘しらの能登路の旅や冬怒涛

愛知県豊田市

城山 悠水

極月やかれはのやうな小鳥たち

長野県下伊那郡

長沼 まさし

黙食の続く教室風牙ゆる

大垣市

スミノ さくら

枯れ草のほのと艶めき残りけり

岐阜市

花川 和久

さざ波の光を返す冬の月

養老郡養老町

佐藤 咲楽

選者吟

師の句碑を訪ふも初旅川ひかる

さち子

一般の部

